

JICA 教師海外研修 授業実践案

【実践者】

氏名	清水 歆奈	学校名	東京都立南多摩中等教育学校
担当教科等	英語	対象学年（人数）	3年 A組（40名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和7年12月 ～ 12月（2時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：英語、道徳		
2. 単元名と単元目標 単元名：Let's widen your world! ～多文化共生社会を生きる私たち～ 単元目標：多文化について書かれた英語の会話文を読んだり聞いたりして、英文を引用したり内容に言及したりしながら、考えたことを英語または日本語で伝え合うことができる。 関連する学習指導要領上の目標：（1）聞くこと ウ、（2）読むこと イ・ウ、（5）書くこと ア		
3. 単元の評価規準	①知識・技能	英語の会話文を読んだり、聞いたりする活動を通して、文化的、社会的な題材について理解することができる。
	②思考・判断・表現	会話文から読み取った文化的、社会的な内容について、英語または日本語を用いて適切に表現することができる。
	③主体的に学習に取り組む態度	バングラデシュをはじめとする発展途上国の文化や社会に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを取ろうとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義	【単元設定の理由・意義】 本単元の題材である Let's widen your world! は、授業者の教師海外研修での経験を見聞きし、バングラデシュをはじめとする開発途上国の文化や社会について知ること、生徒自らが多文化共生について考え、多文化共生社会における自分自身の生き方を考える機会とする。 【生徒観】 本校の生徒は、知的好奇心をもち、学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多くいる。また、国際理解教育として海外の学校との交流会やオンライン英会話も行っているため、国際理解や国際交流への意欲関心は高い。3年生2学期に、ディベートやレシテーションコンテストの練習を通して文化的、社会的な題材について英語で扱うようになった。一定数英語を苦手とする生徒もいるため、英語を通して学ぶという経験をさせ、英語を通して「自分と世界がつながった」英語で「できることが広がった」などの有用感を感じてもらい、英語学習のモチベーション向上に繋げていきたい。 【指導観】 まず、授業者がバングラデシュで遭遇した「レストランのお手洗いで足を洗う男性従業員」の姿を共有し、自分だったらどのように受け取るかを考えさせる。次に、フォトランゲージで自分たちの暮らしとの共通点・相違点・想像したことを班で出し合う。他の班の	

	写真を見たり気付きを聞いたりしながら、開発途上国の暮らしについて知見を広げる。そこで、導入で聞いた「レストランのお手洗いで足を洗う男性従業員」は、礼拝前の手足を清潔に保つというイスラム教の教えに非常に忠実であったがゆえの行動であり、ムスリム（イスラム教徒）が9割を占めるバングラデシュではごく当たり前の光景であったことに気づかせる。導入では、「不潔である」、「受け入れられない」などという感想をもつ生徒が多く存在することが予想できるが、そこには、無意識的な偏見（Unconscious Bias）の存在があったということに気づかせたい。 また、知識構成型ジグソー法を用いて自分とは異なるアイデンティティをもつ人物の視点から英文を読みロールプレイングを行うことで、生徒に異なるバックグラウンドをもつ人について「自分ごと」として考えさせ、多文化共生の良さ、難しさ、またそれを実現する方法について考えさせたい。
--	--

5. 単元計画（全2時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	バングラデシュについて知り、多文化共生について考えよう。	・バングラデシュへの興味、関心を高めることができる。 ・バングラデシュの社会が抱える課題について考えることができる。 ・無意識的な差別の存在に気づくことができる。	・授業者がバングラデシュで見た印象的な場面について考える。 「レストランのお手洗いの洗面台で足を洗う男性従業員の姿」 ・バングラデシュ人がどんな暮らしをしているのか知る。 フォトランゲージ、クロストーク ・気づいたこと、日本との違い、疑問点について共有する。 （児童労働、縫製産業、ストリートチルドレン、食文化、学校給食の制度について、学校のような、交通、ダッカメトロのピクトグラム、イスラム教の教科書） ・無意識的な差別の存在に気づく。 導入で紹介したレストランの場面についてもう一度考える。そこに「無意識的な差別」（Unconscious bias）が存在するのではないかと考える。	・フォトランゲージ用資料 ・PPT教材 ・ワークシート
2 本時	多文化共生について考える。	・バングラデシュ人が大切にしていることについて学ぶことができる。 ・日本社会が抱える課題について考えることができる。 ・多文化共生社会において、自分なりに生きていく方法について考えることができる。	・Warm up ・ことわざ4択クイズ ・知識構成型ジグソー法 エキスパート活動/読み合わせ活動 ・Jigsaw Activity “Let’s make a school or a company!” ・まとめ・振り返り	・PPT教材 ・ワークシート ・台本3種類

6. 本時の展開（2時間目）

本時のねらい：多文化共生について考える

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
Warm up (10分)	○“Let’s learn about Bangladesh through proverbs!” ～言語からバングラデシュを読み解こう！四択クイズ～ バングラデシュのことわざ（Proverbs）から、自然の豊かさや国民性を知る。また、日本の暮らしや国民性と比較する。 ① One’s harvest month is another’s complete devastation. (=Someone’s happiness is someone’s sadness.)	・未習の単語については、単語の意味を補足して説明する。 ・boatやtigerなどの単語から身近に河川や自

	② Can't clap with one hand. (=There are always two sides to every story.) ③ The *Bramin left the house, so put away the plough. (=When the boss is away, it's time to have party.) ④ The boat of affection can overcome mountains. (=Love conquers all.) ⑤ Tiger on the bank, crocodile in the water. (=Surrounded by danger from all sides.) ⑥ Five fingers of are never similar. (=You can never expect all members of a group to think alike.)	然があること、温かく、受容的な国民性の一部も読み取ることができるよう助言する。
導入 (5分)	○Let's review!～前時のふりかえり～ 前時では、フォトランゲージを通して、バングラデシュ人の生活について知り、誰もがもちうる「無意識的な差別 (Unconscious bias)」の存在に気づいた人が多くいたことを共有する。	
展開 (30分)	○ Jigsaw Activity "Let's make a school or a company!" 知識構成型ジグソー法を用いて、ある学校や会社で、国外にルーツをもつ生徒や同僚と共生できる環境や規則づくりを行う。 3人一組のグループに分かれ、それぞれエキスパートになる。 • Expert practice Expert A … Mr. Pon, Expert B…Mr. Desh, Expert C…Ms. Jam 日本人、バングラデシュ人、ジャマイカ人の3つの立場から、その国の人々が大切にしているもの、アイデンティティや日本での事例について書かれた英文を読み込む。 • Role Playing • Make a poster The name of the school / School rules / Lunch / How they stay について、英文や英単語を記入していき、お互いを受け入れながら、自分らしさを大切に過ごすことのできる学校、または会社について考え、校則や社則をポスターにして書き出す。 • Share posters 完成したポスターを共有し互いに学び合う。	• グループの組み方に配慮する。 • ジグソー法のグループには介入しすぎず、全体の指導のみに控え、生徒たちの自発的な気づきを促す。
まとめ (5分)	• 「多文化共生とはどのような社会か？」という問いに再度答え、前時からの自分自身の変容を捉える。 • 本時のふりかえり、感想をワークシートに記入する。	

7. 資料（教材）

・写真 ・自作スライド ・自作ワークシート

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

ワークシートの記述、発言

10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど）

【前時の学習より】

「「バングラデシュのレストランのお手洗いで従業員の男性が足を洗っている場面を見かけたらどう感じるか？」という導入の問いに対する生徒の感想

- ・家に水道が無いのではないかな？
- ・不潔だと思ってしまった。マナーや行儀がなっていないな、と思う。
- ・衛生的によくない。あまり良い気はしない。
- ・驚く。そういう文化なのかな？と思う。

フォトランゲージのようす



※フォトランゲージ内でバングラデシュの公立の中学校のイスラム教の教科書（現地での道徳の教科書）「Islamic Studies」の表紙と、「Sidah（礼拝）の方法について」のページを共有。礼拝の方法を紹介し、手足を清潔にしなければならないことを補足した。

フォトランゲージ後の「バングラデシュのレストランのお手洗いで従業員の男性が足を洗っている場面を見かけたらどう感じるか？」という導入の問いに対する生徒の変容・感想

- ・宗教が原因であれば、その国の人々の特色として受け入れることができる。何も知らずに、「汚い」などと思ったのは失礼だった。
- ・その国の大切な文化を守っているのでありだと思うようになった。
- ・事情がわかったら全然嫌じゃなくなった。
- ・自分たちの常識としていることと違うことが世界にはあるということを改めて認識した。
- ・足を洗面所で洗うのは日本人からしたら考えられないようなことであると思ったが、礼拝のために手足を綺麗に保つ必要があると知り、バングラデシュの人には意味がある行為で、拒絶するのは良くないと感じた。
- ・礼拝をするために、手と足を清潔に保つという教えを忠実に守っている国民性の表れだと思った。

文化の違いで自分たちから受け入れられないようなことがあるかもしれないが、それは意味があることだと思っていて、自国の文化だけが良いと思ったりするのはやめたいと決めた。一見、受け入れられないような文化が相手の国の文化の背景について知ることによって受け入れられるようになる。思っていて、まずは知ることが大切だと感じた。

Reflection 感じたこと、変化したこと、学んだこと

異なる宗教を信じている人や、経済格差など、個人に「違い」というものが生じていてもそれを否定せずに受け入れ、助け合おうと努力する姿勢は、本当に素晴らしいと思いました。また、自分の思いこみにとらわれ、色眼鏡でものを見るのは絶対いけないことだと思いました。自分と異なる宗教のことをしっかり学び、受け入れて認められる人になりたいと思います。

お牛洗いの水道で足を洗うことなど、知らなかったの思いこみで、現地の人の行動について悪い印象を持てしまった。無知でいることの怖さについてよく分かったので、様々な考え方や文化について「知る」ことから始めていきたい。

様々な宗教文化を持った人々がいる中でお互いの生活を尊重し合っていることが素晴らしいと思った。ゴミの分別や管理についてなど、動かすのは簡単ではないが動かないような状況があると知り、発展していくこと、その助けをすることはなかなか難しいことだと感じた。自分がアンコンシャスバイアスを持っているかも？という視点を目頃から頭に入れておくことで、様々な文化の人たちと共に生きていけるようにしたい。

アンコンシャスバイアスは多くある。自分たちの生活と社会の発展のどちらを優先してどう折衷していくかはわからない。どちらをもよくしようとすると必ずしも矛盾が生じるかもしれない。文化を学んでより海外に興味を持ちたいという気持ちが強くなった。

Reflection 感じたこと、変化したこと、学んだこと 等

バングラデシュの国の人々の優しさ、心のなさをとても強く学ぶことができた。国々には優しい人があるが、国に米国人へのおもてなしの心を抱かないところなどもすごいなと思った。今私たちにできることは、解決策が見つけられないとしても、自分たちなりに受け入れること、国の文化について考えたりすることばかりだと思った。

Reflection 感じたこと、変化したこと、学んだこと 等

文化の違う人々について、私は今まであまり知らなかった(今もまだ)。いろいろな文化を学ぶことの大切さが分かった気がする。知らなければ受け入れられない、それは当然だと思っても自分も大切だし、みんなも大切。違っていいんだ、みんなと同じようにならなくていいんだ。ただ同じ世界を生きる人として、尊重できればいいんだ、そんな姿勢を学びました。

【本時の学習より】

グループで作成した
学校のポスター

Let's widen your world and
Answer Activity: **Let's make a school!**

School name
W.S.M.S
(World see minamitama school)

School rules
Uniform: free style (You can choose uniform or your clothes)
Lunch: buffet style. For example, rice or bread, chicken or pork.

Student should ...
① Study English. (And a lot of languages.)
② Learn other countries culture.
③ Take a lot of communication.
④ Have hospitality heart.

Let's widen your world and
Answer Activity: **Let's make a school!**

School name
Three Y

School rules
Uniform: Free
Lunch: Traditional foods of many countries such as Japan, Bangladesh and Jamaica. Also, Pork doesn't use pork in lunch.
This school

Student should ...
• respect each other
• study hard
• understand another countries cultures
• enjoy the school life

【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

バングラデシュ人の言語や国を大切に思うアイデンティティに加え、若い力で国を動かし、自分の力で生活費を稼ぐ子供などを見て、たくましさを感じた。また、人をもてなして歓迎する、他人を思う温かい心など、滞在して初めてわかるものが多くあった。発展していく中で生まれる矛盾や歪みなど、国際協力、開発、支援をする上での課題も学んだ。10日間をバングラデシュで過ごし、私自身も、自分と異なる生活をする人々に対し、無意識のうちに決めつけや、偏見(Unconscious Bias)をもっているということに気づかされた。本校の生徒たちには、世界に視野を広げ、文化や宗教、歴史など、より多くのことを知ることによって、それを受容的に捉え、より豊かに生きることができるということを伝えたいと思った。

12. 苦労した点

- ・ 事前研修では、テーマに「言語・文化」を設定していたが、現地で得られたものは道徳の教科書や読まれているイソップ童話、新聞など多くはなかったため、テーマに沿った授業案を考えることに苦労した。教科に関連付けて授業づくりを行うことに苦労した。
- ・ 知識構成型ジグソー法では、英語でのエキスパート原稿づくりを工夫した。その国の良さ・その国の国民がアイデンティティとしているものを大切にしながら、共生するということについて、葛藤(ジレンマ)を感じさせたいと考え、それぞれの国の国民の時間に関する捉え方の違いや、宗教的な文化の違いを原稿に盛り込んだ。また、自分が訪れたことの無い国について、資料やネット上の情報だけを元に教材を作ることも難しく思っていた。そのため、本校のJET プログラムにジャマイカ出身の先生が在籍しており、その方にインタビューを行い、エキスパート原稿を作成した。

13. 改善点	・知識構成型ジグソー法を取り入れる中で、英語での原稿によらない自由な発話を促すことが難しかった。 ・台本を作成している中で、どうしても授業者側の意図があり、恣意的な文章になってしまうというところ。論理的、客観的で自然な流れの会話文を意識して作りたい。
14. 成果が出た点	・生徒がバングラデシュの歴史や文化、国民性を知り、異国に親しみをもって考えるようになった。 ・生徒が発展途上国の課題や開発援助の難しさについて知ることができた。 ・導入に発問を設定し、授業のまとめにもう一度同じ発問をすることによって、授業を通して生徒に気づきや変容をもたらすことができた。 ・授業後、大学進学後の進路について考えた際に、国際協力や、開発援助等の言葉が出るようになり、少なからず生徒の進路や影響を及ぼすことができたことがわかった。
15. 自由記述	現地の生活を目で見て体感してきたこと、バングラデシュの人々や教師海外研修の仲間たちと出会い、学んだことと生徒に伝えたいことがたくさんありまとめ切ることができず、授業を計画、実践するまでに、たくさん悩みました。今では、現地で感じた「モヤモヤ」、帰国して悩んだ「モヤモヤ」した時間もとても意味のあるものだったのだと思います。これからも、自ら「モヤモヤ」を見つけて、考えて続けていきたいと思っています。この機会を大切にしながら、今後も研修に努めていきます。二度とない素敵な経験と出会いの場を設けていただき、本当にありがとうございました。

参考資料・使用教科書：

- ・「だれもが自分を発揮できる学校づくり～多文化共生アイデア BOOK 2022～」
(2022 年、独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 広報部 地球ひろば推進課)
- ・『30 Bengali Proverbs And Idioms That Carry A Lesson For Everyone』 SCHOOP WOOP.COM
(最終閲覧日：2025/11/28 Bengali Proverbs: Wisdom and Insights from Traditional Sayings)